

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	八幡中学校	坂本利文
学校所在地		
〒 643 - 0521 TEL 0737(25)1125 FAX 0737(25)1125		
担当者名	役職名・担当教科	
島田万喜子	教頭	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、和歌山県の中央部に位置し、周囲を山に囲まれた静かな環境にあり、農林業を中心とする地域である。近隣の中学校が次々と休校となって本校に統合され、校区は東西30kmにも及ぶ広範囲となり、バス通学の生徒が全体の約3分の1を占めている。過疎化と共に全校生徒数も減少し、現在生徒は34名で、有田地方の学校では小規模校である。クラブは剣道とソフトテニスの2つであるが、昨年度ソフトテニスは県内ベスト8まで勝ちあがり、近畿インドア大会に出場、剣道は女子団体が県3位になるなど、優れた成績を残している。また、地域の方から学んだ笛、太鼓のお囃子で地域の祭りに参加するという活動を5年以上続けており、地域と学校とのつながりが深く、学校教育に対する関心や期待が大きい地域である。昨年度からは「緑育」にも取り組み、自然との共生についても学んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
1年生10名、2年生12名（計22名）	世界遺産マスター2名、センター職員2名、職員6名（10名）	大門坂・参道・熊野那智大社・青岸渡寺・那智大滝
実践研究テーマ		
本県の自慢で極めて高い価値を有する世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について学び、理解を深める。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	那智山を含む紀伊山地の霊場と参詣道	
〔キーワード〕 世界遺産学習		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1) 地元和歌山の名所である紀伊山地の霊場と参詣道の歴史、文化について調べ、理解を深める。</p> <p>(2) 調べた内容を伝え合う活動を通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」の素晴らしさや良さを感じる。</p> <p>(3) 本やインターネットから情報を集め、必要な情報を取捨選択して、目的に応じた資料の収集整理ができる。</p> <p>(4) 那智山での現地学習として受講した「世界遺産講座」やフィールドワークを通して、より实际的、専門的な知識を得ようとし、またその情報をまとめることができる。</p> <p>(5) 調べたことをプレゼンテーションして発信する活動を通して、企画力、構想力を高め、情報の受け手を意識した表現ができる。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 11 時間 （「現地学習（那智山）」5 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター・・・次世代育成事業（現地学習）</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について調べる。(グループ学習)	書籍やインターネットで「紀伊山地の霊場と参詣道」について調べ学習を行い、知識を深める。	ワークシート
2	調べたことをしおりにまとめる。(グループ学習)	まとめたことを分かりやすく伝えるためにどのような工夫が必要かアドバイスし合う。	まとめたしおり
3	現地学習(グループ学習)	世界遺産講座を受講 「紀伊山地の霊場と参詣道」の学習 大門坂からのフィールドワーク	観察
4	学習したことをまとめる。(グループ学習)	学習してきたことだけでなく、出てきた疑問などについては学び直す。	観察 画用紙
5	学習したことを、パワーポイントを使って発表する。	発表し合う中で、学習した内容だけでなく、発表の仕方についても互いに学び合う。	プレゼンテーション 観察
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>(成果) 事前学習として、「紀伊山地の霊場と参詣道」について調べ学習を行い、しおりにまとめた。まとめる中で、本県の世界遺産についての知識を広げ、興味、関心をもたせることができた。当日は山伏装束に身を包んだ世界遺産センターの河野さんから詳しい世界遺産講座を受けた後、大門坂から青岸渡寺を經由して那智の滝までの参詣道を歩いた。事前学習や講座を受けた後歩いたことで、古の人たちが通った、大きな自然の懐に抱かれたような道感慨深く歩くことができた。また、お二人の世界遺産センターマスターさんのお話が大変分かりやすかったようで、生徒達は一つひとつの説明に大変感銘を受けていた。学習したことをまとめたパワーポイントを使ってのプレゼンテーションは、学校全体で世界遺産について学ぶ機会となった。本校は、今年度の近畿へき地教育研究大会の会場校でもあり、長年ふるさと教育に取り組んでいる。今回次世代育成事業の様々な学習を通して、「ふるさと教育」の目標である『和歌山への愛着を高める学習』を充実させることができた。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>生徒の感想文には、世界遺産について学んだことの効果がよく表れていた。特に代表的なものをあげると、以下の通りである。山伏装束に身を包み、参詣道の歴史について語ってくれた世界遺産センターの職員さんのお話は、その後実際に歩く大門から青岸渡寺、那智大社へ道のりについて、生徒の興味関心を引き、普段知ることの少ない仏教や神道、山岳信仰など、信仰というものに触れる機会となった。また、世界遺産マスターさんの詳しい解説を聞きながら、実際に参詣道を歩くことで、事前学習や講義で学んだことや、世界遺産への畏敬の念を体感できた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>せっかく地元の世界遺産があるのに、熊野古道を実際に歩くこともなく、その偉大さを知らないでいる生徒も多い。今回この事業に参加することで、本校の生徒は世界遺産について多くのことを学び、和歌山という自分たちのふるさとの素晴らしさを再確認することができた。これからもこの事業をぜひ続けていただき、一人でもたくさんの生徒達にこのような体験をさせてあげていただきたい。世界遺産マスターの方々の語りも大変貴重で、職員さんの山伏装束の講義も大変よかったので、今後もぜひ続けてください。</p>			

様式 2

令和2年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書

学習記録・活動写真・現地学習後の生徒感想文]

事前学習



世界遺産講座（10月5日）



- ・熊野古道の「〇町」という段があることによって、目的地までの道のりが分かりやすくなっていることが分かりました。神社とお寺の拝み方が違うことも分かりました。
- ・那智の滝の上のしめ縄を年に1回、一人で10分くらいで取り替えるのを初めて知ったし、那智の滝の上にしめ縄があることも初めて知りました。

大門坂からの道を歩く（10月5日）



- ・熊野古道を初めて歩きました。階段ばかりで足取りが重かったけど、歴史について興味深いことを知ることができました。滝は、火山活動によって石が崩れてできたと聞いてとても驚きました。とてもキレイでした。何回見ても迫力があると感じました。
- ・熊野古道とは、神社や寺だけでなく、三重県、奈良県にまで及ぶ山道全てが世界遺産と聞いて驚いた。徳川吉宗公が何十回と参詣したことが分かった。本来なら660kmも続く道だと知って、また驚いた。
- ・那智の滝は、那智大社からも見えるくらい大きな滝で、下から見ると圧巻だった。
- ・大門坂にはたくさんの階段があって、とてもしんどかったです。でも、上り終わった時に達成感があってよかったです。那智の滝は「きれいだなあ」と思いました。上で3本の滝に分かれていることも初めて知りました。迫力があってすごかったです

事後学習（プレゼンテーション）



- ・熊野本宮大社には行ったことがあって、少しは分かることがあるだろうと思っていたけど、たくさん知らないことがありました。山伏のことも知れたし、和歌山の世界遺産のことを知るいい機会になりました。思っていたより急な坂で大変だったけど、みんなと声を掛け合いながら登れたので楽しかったです。那智の滝まではあっという間ですごく貴重な時間でした。迫力があり、滝の音も大きく聞こえました。最後に素晴らしいものが見えたと思います。